



2016年9月10日発行(季刊)

特定非営利活動法人 市民シンクタンクひと・まち社
〒160-0021 新宿区歌舞伎町 2-19-13 ASKビル 601

TEL 03-3204-4342 FAX 03-6457-6202

E-mail npo@hitomachi.org URL : <http://www.hitomachi.org>

郵便振替口座 00170-6-410791 市民シンクタンクひと・まち社

たすけあい、つながりあえる保育園として

生活クラブ生活協同組合子育て支援事業推進スタッフ

生活クラブ保育園ぽむ・砧園長 谷嘉子

認証保育所から認可保育園になって

「ぽむ・砧」は2013年4月に世田谷区で認証保育所として始まった。そして、2014年4月にスタートした「子ども子育て支援新制度(以下「新制度」)」の中で、2015年4月から私立認可保育園(以下「認可園」)に移行し、1年半近くが経つ。認可園1年目では、配置基準の厳格化や書類整備などが求められ、保育士の増員や認可園移行に伴い行政との書類のやり取りなど、体制を整えるための対応に追われながら過ごした。その間、保育現場としては、「認可であろうが認証であろうが、子どもたちにとっては、この一瞬一瞬が大切な成長の時間であること」「一人ひとりを大切に考える、子どもたちが十分に愛され受け入れられる」という保育目標は変わらず大切に守るべきことである」などを確認しあい運営に取り組んで来た。

2年目を迎えた2016年度は、生活クラブ保育園の理念と、「新制度」で求められている保育所の使命を照らし合わせながら、活動をさらに広げていきたいと考えている。「新制度」で謳っている項目の中に、「地域の実情に応じた子ども・子育て支援(教育・保育施設を利用する子どもの家庭だけでなく、在宅の子育て家庭を含むすべての家庭及び子どもを対象とする事業として、保育所が機能していくことが求められている。)」がある。これは、生活クラブ保育園として掲げている理念「子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びや楽しみを持てる地域・社会をつくる」と重なる部分である。

顔の見える関係づくりをめざして

保育園は、安全面など考えると閉鎖的な世界になりがちである。しかし、それでは地域から孤立してしまう。災害時や不審者対応など地域の助けを必要とする場合がある。また、子どもの声に対しての苦情など、近い関係を作り、理解しあい、解消していくべき事もある。

さらに保育園という拠点を強みとして、園児の家庭だけではなく、地域の子育て家庭やいろいろな方と助け合える関係作りを追求したい。今年度、地域での活動として進めていることは、小中学生・妊産婦・高齢者と乳幼児のふれあいの機会を作る、居場所提供を行っている方々との交流、親が保育へ参加して他の子ども遊ぶ、ノーバディーズ・パーフェクト講座(※)の開催などである。地域で顔の見える関係の第一歩を踏み出したばかりだが、さらにその先のつながりが広がっていくのを期待しながら、ワクワクした気持ちで始めている。

今年のはじめには、「保育園に落ちた」という母親のブログに対し、大きな反響があり、ニュースでも報じられた。一人の母親の声からたちまち運動の渦が広がり、政府も巻き込むほどの影響力があったことに驚きもあるが、それだけ社会全体にとって保育を取り巻く状況が大きな課題になっているということなのだと思う。

保護者にとっては、「保育園に入園出来ない」ことにより人生設計の変更を迫られることとなる。保育士にとっては、責任の重さに比べて安い給与ではとても働く気持ちになれないだろうし、園にとっては保育士不足や地域からの反対で開園が難しいなど、保育の質を問う以前の問題を抱えている。この問題を解決する道のりは険しいが、未来を担う子どもたちのためにも、あきらめずに課題に取り組みながら、子育て家庭を地域全体で支えられるようなつながりを地道に作っていきたい。

(※) 子育て中の親が日ごろ感じている悩みや関心のある事についてグループで話し合い、自分の子育てを振り返り自分らしさを見つけるプログラム

